

筑波大学 人文・文化学群

人文学類案内 2025

College of Humanities

筑波大学人文・文化学群人文学類案内 2025

編集・発行：筑波大学 人文・文化学群 人文学類

発行責任者：島田 雅晴

所在地：〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1

Phone-Fax：029(853)4001

発行日：令和6年7月5日

ホームページ：<https://www.jinbun.tsukuba.ac.jp/>



ようこそ人文学類へ

—人間の見えない真実を探究する—

人文学類では、人文系の学問分野の中でも特に、哲学、歴史学、考古学、民俗学、言語学といった領域を深く学ぶことができます。人文学類生は哲学主専攻、史学主専攻、考古学・民俗学主専攻、言語学主専攻の4つの主専攻の何れかに属し、卒業論文の作成に向けて、専門性の高い勉強をすることが求められます。

卒業論文を完成させる過程では、過去の研究者の研究手法を手本とし、それをなぞり、模倣することで、研究とはどういうものかを体感・体験することになります。そうすることで得られるのは、それぞれの分野に固有の専門的概念や専門的知識だけではありません。何事に対しても論理的に思考し、自分で答えを導きだせるようになる知性です。これは自分の日々の営みをとても豊かなものにしてくれます。文科系であろうと、理科系であろうと、体育・芸術系であろうと、大学で学ぶということは、この知性を養うことだと私は考えています。

学問とは、表面的には見えないものを可視化すること、日常的には意識しないものを意識化することだといえます。例えば、重力は直接目には見えません。また、そういうものがあるなど、普通に生活していく中では意識することもあります。しかし、それには実在性があるわけです。表面的には見えないものを見ることや無意識的なものを意識することは大変難しいことです。一歩下がって、そして、客観視する対象として、物事を見つめなければならないからです。この抽象的な思考能力が知性の源です。

先にも述べましたが、人文学類で扱う研究領域は、哲学や史学、考古学、民俗学、そして、言語学です。これらに共通するのは、人間の思考や営みに関係するということです。つまり、人文学類では、私たち人間が、私たち人間について、一歩下がって表面的には見えない真実を探究します。

「人間」はあまりにも私たちにとって近過ぎます。また、当然すぎる存在です。そういうものを学問の対象とすることはとても難しく挑戦的で、だからこそ、魅力的だともいえます。人文学類でぜひチャレンジングな問いに挑んでみてください。

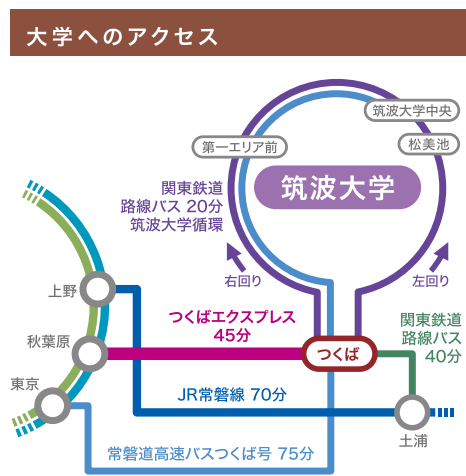
人文学類長 島田 雅晴
(言語学主専攻 英語学コース)



CONTENTS

ようこそ人文学類へ	1	言語学主専攻	15
人文学類とは	2	一般言語学コース	16
留学制度	4	応用言語学コース	17
哲学主専攻	5	日本語学コース	18
哲学・倫理学コース	6	英語学コース	19
宗教学コース	7	卒業生の進路 就職と進学	20
史学主専攻	8	卒業生からのメッセージ	21
日本史学コース	9	人文学類に関するQ&A	22
ユーラシア史学コース	10	入試情報	23
歴史地理学コース	11		
考古学・民俗学主専攻	12		
先史学・考古学コース	13		
民俗学・文化人類学コース	14		

筑波大学 人文・文化学群人文学類	
■昭和49年開設	
定員※	120名
現教員数	51名
■令和6年度入学者	
AC入試	4名
推薦入試	21名
私費外国人留学生入試	0名
前期試験	46名
後期試験	22名
入学者	93名
※定員1学年120名 1年次は、うち30名が総合学域群に所属	



人文学類とは？

筑波大学の組織

筑波大学には学生の所属する「学群・学類」という組織があります。サイズから言うと、学群は学部、学類は学科くらいに相当しますが、専攻の成り立ちから言うと、人文学類は人文科学の多くの分野をそろえていることから、学部と同等と考えてください。

「人文・文化学群」は、人文学類のほかに、比較文化学類、日本語・日本文化学類のあわせて3つの学類で構成され、学類をまたいだ科目の履修が可能です。それにより、人文科学の学問分野に幅広く触れることができます。詳しくは下記のウェブページをご覧ください。
<https://www.humcul.tsukuba.ac.jp/>



筑波大学の教育組織（学生の所属）

学 群	学 類	人 文 学 類	
人文・文化学群	人文学類 比較文化学類 日本語・日本文化学類	哲学主専攻	哲学・倫理学コース 宗教学コース
社会・国際学群	社会学類など	史学主専攻	日本史学コース ユーラシア史学コース 歴史地理学コース
人間学群	教育学類など	考古学・民俗学主専攻	先史学・考古学コース 民俗学・文化人類学コース
生命環境学群	生物学類など	言語学主専攻	一般言語学コース 応用言語学コース 日本語学コース 英語学コース
理工学群	数学類など	大 学 院	
情報学群	情報科学類など	人文社会ビジネス科学学術院	
医学群	医学類など	人間総合科学学術院	
体育専門学群			
芸術専門学群			
総合学域群	2年次より人文学類へ30名移行		

また、筑波大学は大学院も充実しており、卒業後も専門的に研究が続けられる環境が整っています。人文学類のほとんどの教員は、大学院人文学学位プログラムにおいて修士論文、博士論文の指導にあたっています。

人文学類の主専攻とコース

人文学類には、哲学主専攻、史学主専攻、考古学・民俗学主専攻、言語学主専攻という4つの主専攻分野があります。それぞれの主専攻分野は、さらにいくつかのコースに分かれ、人文学類全体では11のコースがあります。総合学域群から人文学類へ進むこともできます。

履修について

人文学類の授業科目は下表のように区分されており、カリキュラムにしたがって学修を進めながら、学士（人文学）の学位の取得を目指します。卒業時には、人文学の専門的知識、十分なコミュニケーション能力と想像力を有し、現代社会の課題に果敢に取り組むことができる人材となっていることが期待されます。また、目的をもってこれらの科目群を計画的に履修すると、将来への展望も開けてきます。たとえば、スペシャリストを目指す人は、専門科目を重点的に履修することができます（専門重点化）。ジェネラリストを目指す人は、関連科目として人文系だけでなく社会系、芸術系、理科系の

科目を広く履修したり、専門外の特定分野を集中的に学んで教養を深めたりすることも可能です（教養重点化）。教員を目指す人は、関連科目として教育学類の科目を意識的に履修すると付加価値が高まります（教職重点化）。国際派を目指す人は、共通科目として特定の外国語を鍛える科目を重点的に履修することができます（語学重点化）。

なお、所定の「教職科目」や「博物館学」の単位を修得すれば、教員や学芸員の資格が得られます。人文学類で取得できる教員免許状の種類と教科は、中学校一種と高等学校一種の国語・社会（高校は地理歴史、公民）・英語の普通免許状です。

人文学類の授業構成（令和6年度）

授 業 科 目 の 区 分		内 容		標 準 の な 履 修 計 画				単 位 数
				1年	2年	3年	4年	
専 門 基 礎 科 目		専門教育に必要な基本的な知識の修得		○○○ ○○○	○○○ ○○			11単位
専 門 科 目		主専攻コースの専門的な内容の修得		○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	卒業論文 ○○○ ○○○ ○○○	54～ 88単位
基 礎 科 目	〈 共 通 科 目 〉	総 合 科 目	ファーストイヤーセミナー 学問への誘い 学士基盤科目	○ ○ ○				1単位 1単位 1単位
		体 育	健康管理と体力増進	○	○			2単位
		第 一 外 国 語	外国語運用能力の育成(英語・ドイツ語・フランス語 中国語・ロシア語・スペイン語・韓国語)	○○○ ○				4単位
		第 二 外 国 語	外国語運用能力の育成 (上記外国語のうち第一外国語以外の言語)	○○○	○			4単位
		情 報	情報科学についての基礎的な能力の育成	○○○ ○				4単位
		国 語	日本語の文章作成技術の養成	○○				2単位
	芸 術	芸術を鑑賞する力を培い自ら制作することを学ぶ科目	○	○	○	○	自由	
〈 関 連 科 目 〉	選 択 科 目	基礎的・入門的な科目	○○○ ○○○				6～ 34単位	
	卒業単位124単位							
教 職 科 目		教員資格を得るために必要となる科目		○○○ ○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○	教育実習	10単位を 限度として 選択科目に 認定

※丸印は1単位を表し、各学年で履修する単位数のイメージを示しています。

筑波大学は67か国・地域の大学・機関と380の交流協定を結んでいます(2024年1月10日)。最近では以下をはじめとする大学に人文学類生が留学をしています。

- サントペテルブルク大学(ロシア)
- 北京大学(中国)
- 高麗大学校(韓国)
- キーウ国立大学(ウクライナ)
- カレル大学(チェコ)
- フランシュ=コンテ大学(フランス)
- 世界経済外交大学(ウズベキスタン)

協定に基づく交換留学の場合、授業料相互免除および単位互換制度があります。奨学金や単位互換制度など、留学に関する詳しい情報については、下記のウェブページをご覧ください。

<https://ssc.sec.tsukuba.ac.jp/ies-top>

■哲学・倫理学コース ■宗教学コース

宗教学コース 保呂 篤彦

「哲学」が他の学問(科学)とは異なる特別の学問であることは、その名称からも見て取れます。物理学(自然科学)や法律学(社会科学)はもちろん、歴史学や人類学、言語学のような人文学(人文科学)もまた、その名称に表れているように、何れもその対象が限定されており、それに応じて研究方法にも制約がありますが、「哲学」だけは研究対象に限定がなく、研究方法も多様なのです。

それでは、「哲学」は一体何を研究するのでしょうか。これ自体が一つの「哲学」的な問いであり、答え方も一通りではありませんが、一つの答えとして次のように言ってもよいでしょう。すなわち、「哲学」は他の学問(科学)が原理的に扱えない問いを問う。例えば、物理学は物のあり方を研究し、普遍的に妥当する答えを導きますが、なぜその知が普遍妥当的でありうるのかを、物理学自身は問うことすらできません。また、民族学や人類学は特定の民族・文化において、いかなる善悪の観念が通用しているかを研究できますが、本来的・普遍的な善は問えません。さらに、「私」とは何者で、何のために存在するのかを問いうる科学など、どこにも存在しません。そして、このような問いこそ、哲学、倫理学、そして宗教の問いに他ならないのです。

科学の目覚ましい発展にもかかわらず、科学知では解決できない諸課題に人類が直面している今こそ、哲学・倫理学・宗教学の真摯な探究が強く求められているのです。



ソクラテス



『純粋理性批判』第二版扉

7世紀インドの仏教哲学者ダルマキールティ

哲学主専攻について

人文学類の「哲学主専攻」は、「哲学・倫理学」、「宗教学」という二つのコースに分かれ、時代的には、古代から近現代まで、また内容的にも、西洋思想のみならず、東洋思想や日本思想までカバーした全国でも有数の充実した学びの環境を提供します。学びのスタイルも、文献を緻密に読み解くものから実地調査を重視するものまで様々ですが、どちらのコースに所属しても他コースの授業を学修することが容易であり、質、量ともに申し分のない学修経験を積むことが可能です。

私の留学生生活 フランシュ=コンテ大学:フランス 卒業生 寺下 彩乃

大学附属の語学学校 CLA(Centre de Linguistique Appliquée)でフランス語の力をつけた後、大学の学部で授業を受けました。CLAには様々な国籍の留学生がおり、フランス人の友人に加えたくさんの国籍の友人ができました。学校がない日でも一緒に料理を作ったり街に出かけたりして、交流を深めました。また、大学の国際交流団体のイベントにも積極的に参加しました。

授業中だけでなく日常生活のすべてにおいてフランス語を使わなければならないことに最初は不安を感じていましたが、活きたフランス語に触れながら自分もフランス語を使うことで、語学力向上をめきめきと実感できるため、勉強していて楽しかったです。自力で生活するため、また、友達との会話を心から楽しむため(語学力があるほうが、お互いの考えていることをより正確に伝えあえる)に必要な語彙や表現が、必要なものほど早く覚えられました。

今まで海外に行ったことがなかったため、何もかもが新しいことばかりでした。街を歩いていても、友人と話していても、何かしらの発見がありました。その結果として、日本にいたら考えないようなことを考えたり、今まで持っていなかった新しい視点を得たりすることができ、すごく嬉しかったです。さらに、それらが図らずも自分に返ってきて、自分自身のことも以前より分かるようになったような気さえするのは驚きでした。



私の留学生生活 大連大学:中国 卒業生 吉田 奏一

「大連ブレインターンシップ」は、大きく二つのプログラムから構成されています。留学を見据えた日本語学科の学生との交流と大連に進出している日本企業の見学です。

現地の学生との交流では、彼らと食事や行動を共にしながら、大連大学の学生が日々どのような生活を送っているのかという様子や日本語学科の授業風景を詳しく知ることができます。日本企業の見学では、大連に進出している様々な企業の方のお話を聞く中で、普段はあまり見ることができないような事業や商品開発の現場を見学させていただけます。

こうしたプログラム以外にも、ブレインターンシップでは比較的受講生が自由に行動できる時間も設けられており、発展著しい開発地区や大連市の中心地へと足を運ぶことも可能です。北京、上海…といった中国の他の都市とも違う街の光景は、きっと皆さんの目を惹くはずです。そして何より、中国では珍しいらしく…空気がキレイな街です!

海外に行ってみたくて、なかなか足を延ばせない。学んだ中国語を実際に使える場所に行ってみたくて。他でもない大連という街を見てみたい。そのような思いを持っている方は、ぜひ「大連ブレインターンシップ」に参加してみてください。



私の留学生生活 サラマンカ大学:スペイン 卒業生 中川 紗智

大学では、スペイン語・スペイン文化を学ぶプログラムと、ラテンアメリカ地理やポルトガル史に関する科目を受講しました。授業は当然のことながら全てスペイン語で行われるため、ついていくのが大変でしたが、日本で学ぶのとはまた違ったアプローチの仕方が新鮮で、とても興味深く面白く感じました。授業以外でも、日本語を勉強しているスペイン人学生たちと言語交換(互いの母語を教えあうこと)を行い、一緒に食事をしたり遊んだりしながら語学力を上げることができました。

また、長期休暇中には、ヨーロッパ各国・ポルトガル、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、バルト諸国などを一人で旅行し、様々な経験をしました。

それまで一度も海外に行ったことがなく語学もさほど得意ではなかった私ですが、留学生生活をおくる中で今まで知らなかった沢山の異なった文化や価値観に触れ、それらに体当たりでぶつかることで、自分のなかに大きく新しい世界が拓けたように思います。



哲学主専攻 Philosophy

哲学・倫理学コース

授業科目

■ 哲学特講 ■ 哲学史 ■ 哲学演習 ■ 倫理学特講 ■ 倫理思想史 ■ 倫理学演習



トマス・アキナス



デカルト



カント



福沢諭吉



檀垣 良成 (西洋近世哲学と対話論)

身の回りを見ても世界を見ても、真理の探求としての哲学の重要性は増すばかりです。ともに探求しましょう。



千葉 建 (西洋近現代倫理学)

倫理学を通じて、「善い人間とは何かを知る」だけではなく、「善い人間になる」手助けができれば嬉しいです。

「生きる」ことは「知る」と共に

教授 [西洋近世哲学と対話論] 檀垣良成

人間にとって「生きる」ことは「知る」と共にありますが、人は、一定の「ものの見方(知り方)」を前提し、特定の「生き方」を選ばざるをえない生き物です。この世界(直)観ないし人生(直)観を反省し、真に自分のものにするとところに哲学・倫理学の真骨頂があります。

哲学することの醍醐味は、単に知識を増やすことにあるのではなく、自分が生きるうえで既に前提している原理(常識)を反省し、みずからの責任で再構築することにあります。現代世界の混迷を理解する鍵は、この意味での哲学の不在、人文学の軽視にあると思います。進むべき方向を見定める知性なしに私たちの未来はありません。しかし、このことは一人でできることではなく、他者との〈対話〉、過去の哲学者との〈対話〉を適切に積み上げることによって可能になります。哲学・倫理学コースでは、教員とコースメンバーが互いに助け合いながら、この「哲学すること」、「倫理学すること」を学んでゆきます。

津崎 良典 (西洋近世哲学)

フランス哲学の学びを通じて人間と人間を超えるものへの感嘆を新たにしてほしい。



西村 雄太 (西洋中世哲学)

中世の哲学者の考えを真摯に学ぶなら、私たちが自明のものとして忘却の彼方へと追いやった事柄の真の重要性に気付くことができるかもしれません。



常 瀟琳 (日本思想)

異国のような他者性と、現在との連続性を併せ持つ日本思想史との真剣な〈対話〉を通じて、一緒に想像力を高めていきましょう。

哲学、倫理学はどんな授業？

哲学では、古代ギリシア哲学から中世ヨーロッパのトマス・アキナス、エックハルトらのキリスト教哲学を踏まえた上で、主にモンテーニュ、デカルト、マルブランシュ、ライプニッツ、デイドロ、カントなどの近世フランス、ドイツの哲学が現代哲学をも見据えて取り上げられます。

倫理学では、ベンサムやカントらの古典的な理論を踏まえた上で、メタ倫理・応用倫理・徳倫理など現代倫理学のさまざまな議論に及びます。さらに仏教・儒教・武士道など、東アジアおよび日本の倫理思想にも目配りがされることになります。

先輩たちの卒業論文

- ・プラトンにおける正義と幸福
- ・伝統的懐疑論とデカルトの方法的懐疑
- ・カント倫理学における嘘の絶対的禁止の位置づけ
- ・ベルクソンにおける客観性の問題
- ・生命倫理における「自己」領域の臨界点
- ・共苦の思想—親鸞と利他行—
- ・不安の中の実存—キルケゴール「不安の概念」研究—
- ・ヤスパーズにおける<限界状況>と<直観>
- ・ハンナ・アーレントの「世界」について

コースの声



卒業生 金尾 ひより

哲学とはどのような学問でしょうか。この問いには様々な答え方がありますが、私が哲学に入門する前の自分に宛てるとしたら、哲学とは「本当のところ」を探る学問だと答えます。あの哲学者が本当に言いたいのはどういうことか、それは本当に正しいのか、私のこの考えは本当に真なのか、この世界でよいとされていることは本当に善なのか。目に映るもの心に浮かぶものが本当のところはどうあるのか、どうあるべきかを自分の頭で考えるのです。こうしたことを考えるためには哲学者が残した言葉や世界や他者、そして自分と徹底的に向き合い、対話する必要があります。

そうした営みによって、自分自身が鍛えられます。そしてそれは、より鋭いまなざしで世界を眺めたり、新たな問いを発見したり、いざというときに進むべき道を見いだしたり、あるいは道を踏み外すことを免れたりすることにつながります。このことが「わかる」ためには実際に自分で考えて表す、「哲学をする」ということを自らの体験としなければなりません。哲学者の「名言」集を読み、哲学を理解したつもりになるなどもってのほかです。

蛇足ですが、私はこの「コースの声」の執筆に適任でないと自己評価しています。哲学・倫理学コースにはもっと鋭い洞察力を持った人や、輝く表現をする人がいます。哲学・倫理学コースの授業ではそうした人たちと問題意識を共有し、深く考えることができるでしょう。

哲学主専攻 Philosophy

宗教学コース

授業科目

■ 宗教学 ■ 宗教哲学 ■ 比較思想論 ■ 西洋宗教思想史 ■ 東洋宗教思想史 ■ 宗教学演習

現代社会から期待されている宗教学

宗教は科学技術の発展によって近い将来、消えてなくなると予想された時代がありましたが、この予想は裏切られました。中近東を中心にしたイスラーム復興、アメリカ合衆国におけるキリスト教ファンダメンタリズムの台頭、ロシアや東ヨーロッパの共産主義体制崩壊後のキリスト教再生などに見られるように、宗教は今なお世界の人々の心に生き続けています。一方、宗教は、国際紛争など世界が解決すべき重大な問題とも、また、いわゆるカルトなど私たちを困惑させる身近な問題とも深く関わっています。私たちの平穏な日常の支えになる宗教と様々な問題を引き起こす宗教はどのように繋がるのでしょうか。このように現代社会は多様な宗教現象に翻弄され、宗教に対する適切な理解を強く求めています。そしてこの要求に応じることを最も期待されているのが他ならぬ「宗教学」です。宗教現象の多様性・多面性に応じて、宗教研究には多様なアプローチの仕方があります。本コースでは、方法論や研究対象がそれぞれ異なる三人の教員が、現代世界の宗教状況が突き付ける問題を自分なりに受けて立ちとうとする学生諸君を多面的にサポートします。



保呂 篤彦 (宗教哲学、カント研究)

西谷啓治曰く。宗教はそれを必要としていない人にこそ必要である。宗教を必要としている人も、必要としていない人も大歓迎です。



志田 泰盛 (インド古典学)

サンスクリット語を通じて古典インドの思想世界を覗いてみると、世界の見え方が変わってくるかもしれません。



土井 裕人 (西洋古代の宗教思想)

思想を挙げるまでもなく、人間の関わる様々な領域を宗教抜きに理解しようとすることはできません。そこに宗教や宗教学を学ぶ面白さがあります。

コースの声



卒業生 石戸 美緒

皆さんは「宗教」を勉強すると聞いてどのようなことを思い浮かべますか。ある特定の宗教の教義を考察したり、宗教家の思想を探究するといったイメージを持つ方も多いかもしれませんが、それだけではありません。宗教は人間の文化や習慣などあらゆる行動の基礎となっています。さらに、宗教は古代

から現代にいたるまで人々の中に生き続け、時間的にも空間的にも大きな広がりを持っています。そのため、宗教を通して現代の問題にアプローチしたり、美術作品や演劇などの文化的要素から宗教の本質や思想を考えることも宗教学コースでなら可能です。つまり、宗教学コースでは幅広いテーマを扱うことができるということが特徴の一つと言えます。

私は、古代インドの物語集が宗教的要素を含むようになる過程を美術作品から研究しましたが、宗教学コースでは様々な研究対象を様々な研究方法で考察できるため、同じ宗教学コースの中でも多種多様な研究をしている仲間がいます。そこから、刺激をもらい、自身の研究に生かしたり、自らの考えを相対化ができるという点も宗教学コースの魅力でしょうか。

皆さんも宗教という切り口から、人間の本質や自らの問題意識について深く掘り下げてみませんか。



上：関西・北陸での宗教学実習の様子
下：「宗教学-b」の講義の様子

宗教学はどんな授業？

宗教を学ぶ上では当たり前にあるように思える「宗教」や「宗教学」ですが、必ずしも自明にあるものとは言えません。春学期はreligionに対する訳語としての「宗教」と元のreligionについて、語の成立から考えていきます。秋学期は宗教学の主要な学説をたどります。

先輩たちの卒業論文

- ・インドの女神ドゥルガーとカーリーに見られるヌミノーズ
- ・オーバーアマガウ受難劇の宗教性
- ・現代仏教寺院の役割
- ・バルトリハリにおけるbuddhiについて
- ・仏教は女性蔑視の宗教なのか
- ・神話における男性性と女性性—「ヒーローの旅」と「ヒロインの旅」の非対称性について—
- ・人生を語る相手としての哲学的対話ロボットの可能性とシステム構築
- ・ムスリムの宗教実践と日本における生活上の困難

史学主専攻 History

■日本史学コース ■ユーラシア史学コース ■歴史地理学コース

歴史学という営み

少し前まで、電車のなかでは、多くの乗客が紙の本や新聞・雑誌を読んでいました。ところが現在では、ほとんどの乗客がスマホを一心不乱に眺めています。ひとつの道具の出現によって、人間の振舞いと社会の光景は劇的に変化してしまったのです。ここには歴史上のひとつの「断絶」があります。同じような断絶は無数にあるはずですが、その多くは時間とともに忘れ去られていきます。断絶後の状況が、自明のものとして疑われなくなるからです。歴史学は、このような忘れられた断絶を発見し、当たり前と思っていた世界が、実は歴史上のある時点で生み出されたものであること、それ以前には別の世界が存在していたことを明らかにしようとしています。

古い時代に目を転じてみましょう。立ったままお辞儀をするという中国の作法が、「日本人」のあいだに定着し始めるのは平安時代です。この挨拶の流儀は、「日本人」の身体に深く浸透し、1000年以上経った現在も、列島に暮らす多くの人々の行動を無意識に規制しています。ここには歴史上の長い「連続」が認められるでしょう。歴史学は、このような埋もれた連続を掘り起こし、歴史のただならぬ慣性を再認識しようともします。歴史に目をこらすと、人間社会がなかなか変化しにくいこと、しかし変化するときには、あっという間に変わることがわかります。歴史学とは、はるかな過去と現在のあいだに、そのような「連続」と「断絶」を無限に見出す営みであるといえるかもしれません。

筑波大学人文学類の史学主専攻には3つのコースがあり、古今東西の歴史上のさまざまな問題を自由に探究できる環境があります。私たち教員とともに、歴史学の営みに熱意をもって参加してくれる生徒を待っています。

(三谷芳幸)

▲清朝・西太后の陵墓の満蒙漢文碑



◀歴史地理学実習(志摩市)



▲古代メソポタミアの遠征図(前26世紀)



▲『日本書紀』の写本

史学主専攻 History

日本史学コース

授業科目

■ 日本史概説 ■ 日本史史料学 ■ 日本史特講 ■ 日本史演習 ■ 日本史実習 ■ 日本史研究

大学で学ぶ日本史学

教授 中野目 徹

大学入学までの日本史は、しばしば暗記科目といわれることがあります。そして、試験のときの正答は一つだけだと思います。

それに対して、大学で学ぶ日本史学では、クラスの全員に一律に覚えてもらうような知識というものはありません。4年間の授業を通して、各自の問題関心に即した研究課題を立て、それぞれの課題にふさわしい史料調査の方法を身につけ、史料に批判と独自の解釈を加えて獲得した各自の見解を、集大成としての卒業論文にまとめてもらいたいと思います。本学ではグローバル人材の養成を目標に掲げていますが、日本史学に関しては日本において研究を極めることが世界で通用するグローバル人材を養成することにほかならないと考えています。

私は3年生になるときの専攻・コース決定届に、その理由を以下のように書きました。

ハーバート・ノーマンの次の言葉をもってそれに代える。「歴史は微妙で複雑な学問であるから、これを粗略に扱うときは必ず人を落とし穴に陥れるものである。それゆえ国民が自国の歴史を正しく理知的に認識していることはきわめて大切である」(『ハーバート・ノーマン全集』第4巻、1978年、岩波書店)。

筑波の地でともに日本史学を創造していこうとする学生がコースの扉を敲いてくれることを願っています。



中野目 徹 (日本思想史(近現代史))

問題意識の高い学生の入学を待っています。
中野目徹編『近代日本の思想をさぐる』(2018年、吉川弘文館)参照。

三谷 芳幸 (日本古代史)

日本史学は「広く深い素養の上にそびえたったものでなくてはいけない」(井上光貞)という精神を受け継ぎたいと思います。



田中 友香理 (日本思想史(近代史))

このような時代だからこそ日本史学に取り組みましょう。

コースの声



4年 埜 秀弥

高校までの「日本史」の学習は、多くの歴史的事象の暗記や、与えられた史料を用いての考察が主たるものであったと思います。しかし、大学での「日本史学」は、そのような学びとは異なります。従来の学説を批判的に捉え、史料の再検討や新たな史料の収集・分析を通して論を組み立てていきます。皆さんが史料を集め、解釈し、歴史像を描く立場になるのです。本コースでは、「日本史学」の学問的な方法を体系的に学んでいきます。

コース科目としては、概説・史料学・特講・実習・演習が用意されています。概説は、その時代の基礎的知識や研究方法を学ぶ講義です。史料学では、研究に不可欠な史料の読み方・扱い方などを学びます。特講では、第一線で活躍されている先生方の専門的研究を学ぶことができ、実習では、現地に訪れて史資料調査や史跡見学を行うことができます。演習はいわゆる「ゼミ」にあたり、さまざまな課題について各自が調査し、論を組み立てて発表します。その中で史料と向き合い、他の学生や先生との質疑応答を通して、史実の厳密な論証の仕方を学んでいきます。そして最終的には、各自の問題関心に基づいて、卒業論文を執筆します。

このような過程を通して、「日本史学」の学問的な方法を身につけていきます。自分で史料を綿密に解釈して、従来の歴史認識に疑問を投げかけたり、新たな歴史像の可能性を模索したりすることが醍醐味といえるでしょう。皆さんと共に日本史学コースで学べることを楽しみにしています。

日本史学を体系的に学ぶ

本コースでは、日本史学を体系的に学べるように授業が組み立てられています。まず「概説」で基本的な知識を身につけたあと、「史料学」で実践的な史料の読み方を習得します。それを踏まえつつ、専門的な研究方法に触れるのが「特講」、史料の読解に自ら取り組み、他の学生と議論するのが「演習(ゼミ)」です。さらに、歴史の現場を訪れる「実習」もあります。こうした段階的学習のうえに卒業論文の執筆があります。

先輩たちの卒業論文

- ・律令国家による僧尼統制の特質と展開
- ・古代地方社会における「郡雑任」の構成と役割
- ・9世紀における交易管理と唐物
- ・検非違使庁と京内の秩序維持活動
- ・田口卯吉の思想
- ・日露戦後・大正期の日本外交と石井菊次郎
- ・昭和戦時期における思想統制と特高警察
- ・戦後における宮内省改革

史学主専攻 History

ユーラシア史学コース

■古代西アジア史サブコース
■中国史サブコース
■ヨーロッパ・アメリカ史サブコース

授業科目

■ アッカド語初級 ■ 古代西アジア史演習 ■ 満洲語文語基礎 ■ 中国史演習 ■ ヨーロッパ史概説
■ ヨーロッパ・アメリカ史基礎文献講読

上：中国・清朝の銅銭

下：第一次世界大戦時に発売されたドイツの絵葉書

アッカド語初級はどんな授業？

今を遡ること約5500年前、現在のイラク南部に相当する南メソポタミアの古代都市ウルクにおいて、人類最古の文字である楔形文字の原型が発明されました。その後、楔形文字はメソポタミアを中心とする西アジア世界に広まり、紀元後1世紀ごろに放棄されるまで文明の基礎になりました。本授業では、この楔形文字の初歩、そして、楔形文字で記された諸言語の一つであるアッカド語の初級文法について学びます。

先輩たちの卒業論文

- ・初期古バビロニア時代Tutub市Sin神殿の貸付事業
- ・紀元前七世紀のアッシリアにおける代替王儀礼
- ・清朝支配初期の新疆南路における回兵の動員—乾隆30年のウシュ反乱を対象として—
- ・戦後内戦期、東北の土地改革における中共地方指導層の役割
- ・19世紀フランスにおける記念物保存活動と中世復興
- ・20世紀ドイツにおける同性愛者解放に関する考察

ユーラシア史学とは

「ユーラシア史学」という言葉に戸惑いを覚えた方も多いのではないのでしょうか。従来の歴史学は、日本史学・東洋史学・西洋史学の三領域に区分されてきました。これは皆さんにも馴染み深いものでしょう。しかし私たちはあえてそうした伝統的区分を採らず、ユーラシア史学という耳慣れない独自のコースを設計しました。それはこの三区分別が、三つの地域の閉鎖性をどこかで前提としているからです。いいかえればこの区分は、三地域が明確な境界線によって分断され、その閉ざされた空間の中でそれぞれ独自の文明を築いてきたという錯覚を生みかねません。しかし実際はそうではなく、人類ははるか昔から文明をまたぐ広域的な交渉を連続と続けてきたのです。そうしたダイナミックな歴史の側面を切り捨てないためにも、私たちはユーラシア大陸で動員したさまざまな文明と、そこから地球規模で拡散した諸文明(新大陸や豪州も含む)をも包摂した枠組みを設定することにしました。それゆえユーラシア史学という言葉には単にユーラシア大陸の歴史だけでなく、それをはるかに凌駕するスケールの「人類史」という意味が込められているのです。



柴田 大輔 (古代メソポタミア史、楔形文字学)

古代メソポタミアの政治・社会・文化について研究しています。



上田 裕之 (中国近世史)

中国近世の経済・財政について研究しています。既存の枠組みに縛られず、自分自身の眼差しで過去と現在の世界を読み解いていく—そんな挑戦に参加してくれる学生を待っています。



岩田 啓介 (内陸アジア史)

清朝と中央ユーラシアの関係を、多言語の史料を用いて研究しています。中国史の一部としてではなく、満洲やチベット・モンゴルの歴史に正面から向き合ってみませんか。



村上 宏昭 (ドイツ近現代史)

20世紀のドイツの歴史を研究しています。歴史を振り返ると、いま私たちが当たり前だと思っている多くの事柄が、実はつい最近まで存在しなかったことがよく分かります。歴史を研究する最大の魅力です。

コースの声



4年 坂田 利通

ユーラシア史学コースには「古代西アジア史」・「中国史」・「ヨーロッパ・アメリカ史」の3つのサブコースがあり、自身の興味関心に従って各サブコースに所属します。

人文学類で歴史学を学ぶ強みの一つは、史料の本格的な読解技術を身につける機会に恵まれていることです。本コース開設の授業では、満洲文字や楔形文字など、見たこともない文字で書かれた史料に取り組む基礎的技術を身につけることができます。これに加えて、「概説」などの授業で専門の基礎的知識を身につけます。さらにゼミに相当する「演習」の授業では、教員や他の学生との議論を通じて、研究動向の把握を深めていくことになります。

私は中国史サブコースに所属し、新疆地域における清朝の遊牧民支配をテーマに、満洲語の行政文書の読解に取り組んでいます。学類1年次から取り組んでいた満洲文語の学習のお陰で、国内でも所蔵が稀な本学図書館の史料を実際に手に取り、読解できるようになったことでますますのめり込むようになりました。清朝の官僚たちは、遊牧民の文化・風習に相当の関心を示していたようです。史料には、遊牧民が有した政治構造、王族たちの対立、魚食の文化や王族の服飾に至るまで言及があり、対応に苦慮する現場の実態を垣間見ることができるようになります。こうした史料から、どのような歴史像を構築するか、何が明らかにできるか、考えるだけでワクワクします。

史料の読解技術を学類の早い段階から継続して学びながら、先行研究を読み込み、史料を集める作業を積み上げることで、従来の歴史像に挑戦していく……生易しいことではありませんが、歴史学の根本的営みを実際に体験できる貴重な機会です。まさに大学ならではの経験といえるでしょう。近年、教科書や国際情勢の場で語られる「歴史」について多くのニュースが飛び交っています。語られるその「歴史」がどのように積み上げられてきたのか、実際に歴史を紡ぐということがどのようなことなのか、その一端をのぞいてみませんか？

史学主専攻 History

歴史地理学コース

授業科目

■ 歴史地理学概説 ■ 歴史地理学研究法 ■ 歴史地誌学 ■ 歴史地理学演習 ■ 歴史地理学文献演習
■ 歴史地理学実習

歴史地理学とは何か

教授 中西 僚太郎

歴史地理学とは、あまり聞きなれない名称かもしれませんが。歴史学なのか地理学なのか、という疑問をもつ人もあるでしょう。

かつては、歴史学の補助分野として、歴史の舞台となった場所を考証することなどが、歴史地理学であると考えられていた時代もありました。しかし今日では、歴史地理学は学問の本質論や方法論からは、一般的に地理学の一分野として位置づけられており、地域や空間、景観、環境といった地理学で発達してきた基礎概念をふまえて、過去の人間集団が地表面をいかに組織し、生きてきたかを追究する分野として認識されています。簡単にいえば、地理学の観点から歴史を研究するのが歴史地理学であるといえます。本コースは、全国でも数少ない歴史地理学を専門的に学べるコースです。歴史学とは違った観点から歴史を研究してみたい、現在を研究する地理学とは関心が異なっていると感じる人には格好のコースといえるでしょう。



中西 僚太郎 (近代日本の歴史地理)

デスクワークだけでなく、フィールドワークもしてみたい人に歴史地理学は向いています。史学主専攻のなかでも、フィールドワークを重視するという点では考古学・民俗学主専攻と共通するところがあり、両主専攻を跨ぐ性格をもったコースといえるでしょう。



清水 克志 (食と農の歴史地理)

近代日本の食文化の変容について研究をしています。現地調査で得られた情報をもとに、さまざまな方法を駆使して、過去の現象を復元する歴史地理学の醍醐味を味わってみてください。

コースの声



4年 新田 悠樹

人間社会で生起する多くの出来事は、この地球上の「どこか」で起きたことです。その意味では、歴史的事象の多くは「場所」と無関係でなく、歴史を考察する上で、地理学の範疇で扱える物事は非常に広範であるといえます。地理学の一分野である歴史地理学でも、多様な歴史的事象について研究することができます。

また、歴史地理学は地理的な空間の要素だけでなく、歴史的な時間の要素をも考察するという特色を有しています。そのため、用いる研究方法も実に多彩です。歴史地理学の研究では、フィールドワークを重視し、文献や聞き取り、さらには統計情報まで、様々な史資料を総合的に活用します。しかし、それは「器用貧乏」を意味するものではありません。幅広い手法を用いて研究することは、対象を深く理解することに直結します。

歴史地理学コースでは、「概説」・「特講」の講義で専門的な知識を学び、「研究法」の講義で史料の読解法や製図の技術を修得します。また「文献演習」では、外書の輪読を通して海外で展開されている歴史地理学の議論についても学ぶことができます。2年次以降に履修する「演習」の講義では、学術雑誌の講読と内容の議論を通して論文の書き方を学び、研究手法の修得を目指します。「実習」では、実際にフィールドに赴き、研究法を実践的に学ぶことができます。最終的には、これらの様々な講義を通して得た知識・技術を総動員して「卒業論文」に取り組みます。

歴史地理学を専門的に学ぶことができるコースは、全国的にも希少です。充実した学習環境のもと、自分だけのオリジナルな問いを立てて主体的に学びを積み重ねていけば、本コースでの学生生活は非常に有意義なものとなるでしょう。



上：歴史地理学実習—南房総市—

下：歴史地理学実習—館山市—

歴史地理学実習はどんな授業？

歴史地理学の研究は、室内でのデスクワークと野外でのフィールドワークの両方から成り立っています。歴史地理学実習では、事前学習をふまえて調査地に赴き、野外での景観観察や聞き取り調査などの方法や、現地ですしか入手できない文献資料(古文書など)の調査方法を学ぶとともに、調査結果を報告書としてまとめる能力を養います。

先輩たちの卒業論文

- ・横須賀市における旧軍用地景観の変容
- ・中山法華経寺門前町における空間変容—昭和期を中心として—
- ・札幌・小樽・余市における果実酒産業の展開
- ・戦後東京特別区における結核死亡率の減少と衛生行政
- ・近世宇和島城下町における武家屋敷の内部構造とその変容—歴史GIS分析を通して—
- ・明治後期以降における岡田式渡船の普及に関する研究
- ・戦後の渋谷区円山町における盛り場の空間構造
- ・ライフヒストリーからみた近現代における富山県売薬商の経営変遷

考古学・民俗学主専攻 Archaeology & Folklore

■先史学・考古学コース ■民俗学・文化人類学コース

現場から考える

民俗学 武井 基晃

考古学・民俗学主専攻は、先史学・考古学コースと、民俗学・文化人類学コースからなります。これらの学問はいずれも「人類学=Anthropology」という総合的な学問分野に統合できます。人類学とは、過去から現在そして未来において、この地球上の様々な場所に生きた人類について、そのあらゆる活動や思考などを研究対象とし、人文科学・社会科学・自然科学の知識を総動員して明らかにすることを目指す学問分野です。

研究・調査の手法をラボラトリーワーク、ライブラリーワーク、フィールドワークの大きく3つに分けたとき、先史学・考古学・民俗学・文化人類学にとって最も重要な調査手法は「フィールドワーク」です。先史学・考古学では、遺跡の発掘調査を通して、長い時間の中で蓄積されてきた遺構・遺物などの物質資料から、人間の行動様式や社会構造を明らかにします。また民俗学・文化人類学の研究も、実際の生活や儀礼などの場に足を運んで参加する現地調査を通して、そこでの観察や対話から、現在を生きる人類の多様な営みや暮らしの実態を考察します。

このようにフィールドワークから得られた現場の生の資料、何物にも代えがたい一次資料に向き合ってはじめて、独創的でおもしろい研究が可能になるのです。その際に、遺物の成分や年代を特定するための専用機材を駆使したラボラトリーワーク、対象地域の過去の歴史資料や学問分野の先行研究を渉猟するライブラリーワークも並行して行われます。

以上のように考古学・民俗学主専攻は、人類学を実践するために設置された、日本では数少ない特色のある専攻です。ぜひこの専攻で学ぶことができる広い視野と豊かな思考を礎に、次の時代を切り拓いてください。



▲民俗学実習(秋田県)



▲トルコ・ハサンケイフ・ホック遺跡の調査



▲考古学実習(土浦市王塚古墳)

考古学・民俗学主専攻 Archaeology & Folklore

先史学・考古学コース

授業科目

■先史学概説 ■考古学概説 ■考古学方法論 ■物質資料研究法 ■先史学特講 ■考古学特講
■先史学・考古学外書講読 ■先史学・考古学演習 ■先史学実習 ■考古学実習

先史学・考古学とは？

考古学=Archaeologyは、遺跡発掘などのフィールドワークで得られる物質文化資料(モノ)を分析することで、過去の人間社会の営みを知ろうとする学問です。それに対して先史学=Prehistoryは、生態学や環境科学なども動員して、人間と自然環境との関わりに重点を置いて人類史を復元しようとする傾向があります。ただし、先史学も考古学も、おもに遺跡や遺物の研究を通じて過去の人間社会にアプローチすることには変わりはなく、1つの研究分野と考えて問題ありません。

先史学や考古学にとって、遺跡の踏査や発掘調査は研究資料を得るための最も重要な方法です。しかし遺跡は一度発掘してしまえば、発掘という研究機会を二度と再現することはできないという性格を持っています。本コースでは、厳密な作業と斬新な発想にもとづいて、たった一度だけの発掘の機会を歴史の再構成に生かせる研究をおこなうことができる学生を育てたいと願っています。



三宅 裕 (西アジアの先史考古学)

知識が増えていくと、まだわかっていないことが増えてくるようになります。その過程こそが大学での学びです。



滝沢 誠 (古墳時代の政治と社会)

考古学は自らの手で歴史を解き明かす点に大きな魅力があります。皆さんと一緒に発掘に行きませんか？



谷口 陽子 (考古科学・保存科学)

ここには誠実にモノに対峙する時間と場があり、そしてそれを咀嚼し栄養にすることができます。広く深く思索しつつも楽しくかけがえのない時間を過ごしてください。



前田 修 (西アジア新石器時代の社会・石器研究)

モノには人間の思考や行動を形作る力が秘められています。遺跡や遺物として残されたモノを研究することで、過去の人々や社会がどのように作られたのかを覗いて見ませんか？



板橋 悠 (骨や植物遺存体の化学分析、古食性復元、年代測定)

モノの向こうには、作った人・使った人・贈られた人・本人など様々な人々の活動と思考があります。過去の人々を想像し、その姿を自分の手で実証していく楽しさを共有できればと思います。

コースの声



卒業生 山本 佳奈

鞭と拳銃を手に密林の遺跡を駆け巡り、ヒロインとともに世界の謎に迫る——有名映画に描かれた「考古学者」の冒険はそんなものでしょうか。もちろんこれは全くの創作ですが、現実の考古学もフィクションに負けないくらい刺激的な学問です。数百年、数千年、場合によっては数万年前の歴史を語るために、考古学を学ぶひとは遺跡を調査・発掘し、出土した土器や石器などを分析します。

「遺物」「考古資料」などと呼ばれるこれらのモノは、過去のひとびとが実際に作ったり、使ったりしたものです。こうした過去のひとびとの痕跡に実際に触れることができるのが、考古学の醍醐味であると私は思っています。

先史学・考古学コースの授業では、座学はもちろん、実践的に考古学の技術を学ぶことができます。普段は博物館でガラス越しに見ている遺物に触れて、肌で感じて学びを深めていくのは、考古学ならではのスタイルです。また2・3年次で参加する実習では、実際に遺跡の発掘調査を経験することができます。本コースでは、生徒が自身の興味関心に基づき、思い通りの課題を見つけて研究に取り組んでいます。先生方にアドバイスをいただき、学生同士がお互いに情報交換をしながら、自分の研究を進めることができる理想的な環境が整っています。

あなたは自分の手で数千年前の土器を掘り出したことはありますか？古墳の石室を覗いたことは？弥生人の手相を観察したことは？西アジアで一番古い土器に触ったことは？考古学でしかできない経験に興味はありませんか？



上：考古学実習での古墳の発掘(土浦市)
中：遺物実測の様子
下：先史学実習で彩色復元したフレスコ画

考古学概説はどんな授業？

人類の始まりから現代までを扱う考古学とはどのような学問なのか(春学期)、日本考古学ではいま何が議論されているのか(秋学期)について理解を深めていきます。

1. 考古資料とは何か
2. 年代を探る
3. 機能を推定する (以上、春学期)
4. 列島社会の統合と国家形成
5. 墓石から探る家族の歴史
6. 考古学と現代 (以上、秋学期)

先輩たちの卒業論文

- ・縄文時代および弥生時代におけるサメ歯関連製品の利用について
- ・弥生再葬墓における土器の系統と造営集団
- ・埴輪に付属する鳥形土製品の性格
- ・モンゴル帝国期の食生活について
- ・江戸時代の化粧道具—紅皿・紅猪口の検討—
- ・日本におけるパブリック・アーケオロジーの現状と今後の提言

考古学・民俗学主専攻 Archaeology & Folklore

民俗学・文化人類学コース

授業科目

■ 民俗学特講 ■ 比較民俗学演習 ■ 民俗史料講義 ■ 民俗学実習 ■ 民俗学調査法
■ 文化人類学講義 ■ 文化人類学演習 ■ 文化人類学実習 ■ 文化人類学調査法



民俗学実習

調査法と実習とは？

民俗学・文化人類学コースの学生（主に2、3年生）は年に1度、日本国内のどこかで調査をします。そこでのフィールドワークを通して生活文化を考察し、人々の思考と行動にふれ、自身の文化理論を試します。そのために事前に「調査法」の授業で十分な準備を積み重ね、それから実際に「実習」調査に向かいます。

先輩たちの卒業論文

- ・背景化する開削者顕彰・前景化する水神祭祀
- ・農業機械の導入後に再認識された牛の飼養という選択
- ・イエを継承した個人による伝承の実践
- ・共鳴し重なり合う「市民」と「生活者」
- ・故人の身体をととのえる一納棺師の民族誌―
- ・富士講と地域における人づきあい

民俗学・文化人類学の学び方

コース教員一同

民俗学は儀礼・信仰・社会・経済などの伝承資料から日常の暮らしと文化を探究し、文化人類学は異文化の営みと我々自身の営みをシンメトリックに研究する学問です。いずれもフィールドワークに基づいて、価値観を異にする人々の行動様式を生活文化の中で理解します。そのため専攻する学生は5日間の調査実習に2回参加し、その体験から自分自身で問題を発見し作業仮説を打ち立てて研究を進めることになります。

民俗学では対象の歴史的な深みを考察するため日本史学と連携した科目を組んでいます。文化人類学では古典的な理論から最新の科学技術論に至るまで幅広く批判的に学びます。こうして育まれた能力を用い、身近でありながら人間にとって根源的な経験を記述し理論的に考察する卒業研究に取り組みます。



中野 泰（民俗学「日本・東アジアの村落・生業研究」）
異なる社会における生活経験の魅力を民俗学から考えてみましょう！



武井 基晃（民俗学「歴史を伝え、神々と交渉する人々」）
民俗学の魅力は、何気ない日常の中にある問いの答えを、人々との対話や体験の共有から見つけていくことです。



中村 友香（文化人類学「南アジア・ネパールの医療人類学」）
異なる文化や生活を送る人々の中に身をおくことを通じて、自分の日常における違和感や不思議について、また「人の生き方」について一緒に考えましょう。

コースの声

3年 鈴木 花歩



民俗学とはどのような学問であるのか、これまで多くの人に私は問いかけてきました。これについて、民俗学は当たり前を見つめ直す学問であると、今の私は答えたいと思います。しかし、私はまだ学びの途中にあり、これからも民俗学とはいかなる学問かについて考え続けなければなりません。

人文学類生は3年次から11のコースに分かれ、各専攻コースで学びを深めます。民俗学・文化人類学コースはそのうちの1つですが、さらに民俗学と文化人類学、2つの学問に分かれています。民俗学と文化人類学の共通点はフィールドワークを行うことです。本コースでは、民俗学実習／文化人類学実習という授業があり、学生たちは自身の興味関心にもとづきながらフィールドワークを行います。

私は2年次の民俗学実習において、山と人々の関わりを調査テーマに据え、宮城県加美町に6日間滞在しました。かつて加美町の生業の中心であった林業や、きのこ・山菜採りなどの山の恵みの利活用という観点から、加美町の人々が山とどのように生きているのかを調査しました。フィールドワークを通して初めて私は、彼らの当たり前に触れた気がします。文献資料だけでは知ることのできなかった人々の細やかな感情や営みを間近で見ることができました。実際に現地に足を踏み入れ、そこで暮らす人々と関わることで、調査テーマもより研ぎ澄まされていきます。

私の民俗学は、自分の近くに眠っていた当たり前を見つめることから始まりました。私はまだ探究の途中です。これからも大学での学び、そしてフィールドワークを通じて、民俗学とは何かについて問い続けることで、ようやく掴めるものがあると思っています。皆さんもぜひ民俗学・文化人類学コースで私たちと一緒に学びませんか？

言語学主専攻 Linguistics

■一般言語学コース ■応用言語学コース ■日本語学コース ■英語学コース

言語学が取り組むテーマとは

教授[中国語学] 佐々木 勲人

鳥が空を飛ぶように、魚が海を泳ぐように、人は言語を使います。言語能力は人間が生まれながらに備えた本能の一つであると言ってもよいでしょう。人間とは何かを探究する人文学類に、言語学主専攻が設置されている理由がここにあります。

では一体どのくらいの数の言語があるのでしょうか。数え方にもよりますが、世界には7千を超える言語が存在するといわれています。その中には、英語や中国語のように莫大な使用人口を擁する言語もあれば、絶滅の危機に瀕している言語もあります。それら一つひとつが特別な個性を持ちつつ、同時にまたどの言語にも共通する性質を備えています。言語には個別性と一般性の両面があるのです。その二面性を解明することは、言語学が取り組む重要なテーマの一つとなっています。

言語は難しいという声をよく聞きます。確かに発音や文法のルールは複雑で厄介ですし、好まれる言い回しも言語ごとに異なります。しかし、私たちが生きているこの世界はもっと複雑で、多様性に満ち溢れているのではないでしょうか。現実世界の厄介さは言語のそれとは比べ物になりません。私たちは言語を用いて複雑な現実世界を捉え、考え、時に思いを伝えているのです。言語が異なれば捉え方も異なり、考え方や伝え方も異なります。これも言語学が取り組む研究テーマの一つです。



▲多言語で書かれたサイン



▲読み手の視線を測定する英文読解実験の様子



▲音声実験室での脳波測定の様子

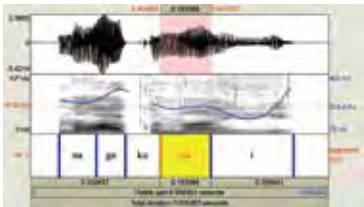
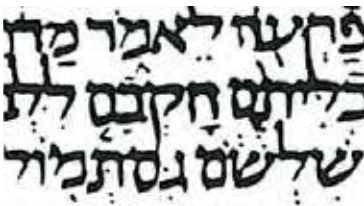
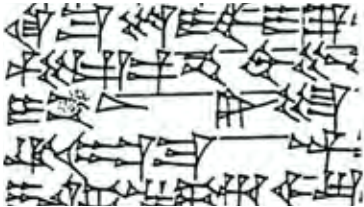


◀「狂言記」(元禄12(1699)年刊)

一般言語学コース

授業科目

■ 実験音声学 ■ 歴史言語学 ■ 中国語学講義 ■ ドイツ語学演習 ■ 仏語意味論 ■ 露語文法論



上:楔形文字
中:旧約聖書の写本
下:音声の音響分析(サウンド・スペクトログラム)

言語学概論はどんな授業？

- 世界にはいくつの言語があるのか。
 - それらはどれも多様なのか。
 - なぜこんなに多くの言語があるのか。
 - 言語が異なっても人は分かり合えるのか。
 - そもそも言語とはいったい何なのか。
- 言語学概論ではこうした素朴な疑問を掘り下げるとともに、どんな言語でも分析できる知識と技術を身に付けます。

先輩たちの卒業論文

- ・A Cross-Linguistic Study of Counterfactual Wish Expressions
- ・非線状的表記の通時的研究
- ・インダス式印章に刻まれたインダス文字の編年研究
- ・ドイツ語の格体系の変化における副詞的名詞句の位置づけについて
- ・日本の漫画におけるオノマトベのドイツ語翻訳手法とその通時的変化に関する考察
- ・フランス語の「ユーモア」に関する言語学的研究
- ・日本語と中国語における化学元素名の対照研究
- ・ウクライナのベッサラビア・ブルガリア人の言語・文化状況について

言語の普遍性と個性性に迫る

教授 [中国語学] 佐々木 勲人

一般言語学コースでは、大きく二つのアプローチが可能です。一つは、特定の言語に限定せず、言語全般に共通して見られる普遍的な性質を明らかにしていきます。もう一つは、個別の言語を取り上げて、その言語の特徴を説明すると同時に、他の言語にも共通する性質を明らかにしていきます。一見、まったく異なるアプローチに思われますが、両者は密接不可分な関係にあるのです。個別言語の研究なくして普遍的性質の説明は不可能ですし、言語全般に共通する性質への理解なくして個別言語の特徴を明らかにすることはできません。二つのアプローチをバランスよく学んでいくことができるのが本コースの特色です。

担当教員には、ヘブル語やアッカド語などセム語派の言語、コプト語を中心とするエジプト語、中国語、ドイツ語、ロシア語などの専門家に加え、日本語や韓国語の音声の専門家もいます。一般言語学コースでは、これまでに学んだことのない言語から、ことばの本質について考えることのできるさまざまな授業が提供されています。



池田 潤 (セム系言語の歴史研究と現地調査)

私は人文学類で言語学とセム系言語に出会いました。以来、言語を通して人間とは何なのか考え続けています。



黄 賢曜 (音声学、日韓対照研究)

日本語と韓国語で子音母音の音声やイントネーションがどういうふうに現れ、人々の知覚にどのような影響を及ぼすかを研究しています。



宮川 創 (古代エジプト語史・コプト語、歴史言語学、言語類型論、自然言語処理)

歴史言語学および言語類型論の知見を軸に、文献の精読に基づくコーパス構築と自然言語処理ツールを用いたコーパス分析を通して、言語の歴史を説明します。



佐々木 勲人 (中国語文法研究、日中対照研究)

ことばの分析を通して中国人のものの見方や考え方の特徴を明らかにしています。



大矢 俊明 (ドイツ語・英語・日本語の対照研究)

外国語を楽しく、また考えながら勉強しましょう。じっくり考えることで、複合的な視点が生まれてきます。



住大 恭康 (現代ドイツ語の意味論・語用論)

何が、言語表現の正しさ、適切さを左右するのか?ドイツ語を手がかりにその答えを探してみよう。



臼山 利信 (露語学、言語政策論)

ロシア語の美しい響き、精緻な体系を持つ文法、ロシア語が話される中央ユーラシア独特の文化世界。魅力満載です。

コースの声



卒業生 中澤 廉

“The limits of my language mean the limits of my world.” (言語の限定は、すなわち世界を限定することである。)という哲学者ヴィトゲンシュタインの言葉があるように、私たちは、言語によってようやく世界を捉え、ものを考え、思いを表現することができます。この言葉の通り、言語を探索することは私たちの世界を広げることに繋がります。もし言語がなければ、私たちは社会生活すら十分に営めないようなゆゆしき事態と直面するでしょう。

一般言語学コースでは単なる語学ではなく言語学を学びます。両者の違いですが、ある言語の運用能力の習得を目的とする語学と異なり、言語学では言語を科学的に研究します。私は独語学を主専攻としました。背景には、私が幼少期よりサッカーを継続し、サッカー大国ドイツへの憧憬があった中で、言語を通してドイツ人のものの見方や文化などの解像度を上げたいと兼ねてからの思いがありました。授業では、ドイツ語で書かれた論文や文学作品などを題材に、文構造の構成や文脈と発話者との間の関係性など、幅広い観点から分析を進めました。こうした学習の中で、単なる語学としてのドイツ語に留まらず、ドイツ語の構造や規則、背景にある文化、ドイツ人のものの見方や捉え方などに造詣を深めることができました。一般言語学コースを担当される先生方は言語学の各分野におけるスペシャリストです。また、一般言語学コースでは数ある言語の中で特定の個別言語を探索することも、幅広く複数言語を学び比較や対照をすることも可能です。言語を探究し、あなたの世界を広げませんか？

応用言語学コース

授業科目

■応用言語学概論 ■応用言語学講義Ⅰ～Ⅳ(応用言語学、教育言語学、社会言語学、文章論)
■応用言語学演習Ⅰ～Ⅳ(教育言語学、社会言語学、文章論) ■応用言語学特講Ⅰ～Ⅱ(教育言語学、社会言語学) ■外書講読

従来の学問領域の壁を飛び越えた、学際的言語研究

教授 平井 明代



応言の小道を探索しよう

応用言語学は、個人と社会のレベルで、言語現象を多角的・实际的に分析し、問題を解決することを目的とする学問です。本応用言語学コースでは、英語教育にかかわるさまざまな事象を取り扱う英語教育学、社会と言語の関係を研究する社会言語学、文章や会話の仕組みを研究する文章・文体論を主要な領域にしています。英語指導法や評価法に関わるさまざまな実験や調査をしたり、実際の談話を録音・書きおこして詳細に分析したり、文献からさまざまな文体を比較したりと、その手法はさまざまです。ぜひ、本コースで応用言語学の魅力を体験してください。



平井 明代 (英語教授法と言語評価の研究)

発信能力や批判的思考を伸ばすためにICTを利用した指導法や言語テスト研究をしています。



小泉 利恵 (スピーキング・外国語としての英語・日本語のテストについての研究)

社会にあふれるテスト。様々な場面で行われる評価。なぜだろうと思う点を深く掘り下げ、研究として高めていきたいと思います。



高木 智世 (社会言語学・ディスコース研究・会話分析)

社会における言語使用のあり方を具に見ることを通して、言語の社会的基盤、そして、人間の社会性とは何かを考えてみましょう。



小野 雄一 (テクノロジーを活用した言語研究)

最近は様々なツールを用いて多様な言語資料を分析し、言語習得(学習)を促します。言語習得理論とICTを活用した効果的な外国語教育について考えていきましょう。



田川 拓海 (日本語学・文章研究)

現代の多様化した文章を見ることで「書きことば」「話しことば」について考えてみよう。



土方 裕子 (リーディング・ESP(特定目的のための英語))

日本人学習者が英文を読む上で顕く要因や、職業英語のカリキュラム開発に興味があります。オリジナルティの高い研究と一緒に目指しましょう。



柳沢 明文 (第二言語習得・語彙学習)

外国語の語彙習得を中心に、学習に影響を与える要因を研究しています。一緒に「効果的な学習法・指導法」について研究しましょう。

コースの声



卒業生 鈴木 優太

僕が言語に興味を持ったきっかけは、中学の国語テストで何気なく使っていた「ら抜き言葉」を減点されたことに腹を立てたことです(笑)。言葉というのはどうしてこんなにも多様な形を持っていて、何が言葉を変化させているのだろうという疑問から、言語学を専攻しようとして大学進学を志し、最終的に選んだのが、言語について自由な視点から考えることが出来そうだと感じた筑波大学の応用言語学コースでした。

私は社会言語学を中心に学びましたが、他にも英語教育学、文章・文体論などで非常に多様な分野について学ぶことができます。私は日本映画の英語字幕を中心に、映像翻訳について研究してきました。表示する時間やスペースが限られているなかで字幕作家は言葉をどのように扱っているのか、ストーリーや作品構成、日本語と英語の違い、文化の違いなど様々な視点から考えてきました。小説、雑誌、漫画、SNSなど、皆さんの好きなものを言葉の視点から捉え直してみても、非常に興味深い発見があると思います。

応用言語学の面白さの1つは、学問と実生活の繋がりを肌で感じることができることにあります。英語や国語の教員を目指す方も言語学習や言語教育について実践的に取り組むことができますし、社会言語学、文章・文体論では身の回りの言葉について新たな興味深い発見をすることができます。応用言語学の様々な分野について学ぶ中で惹かれるテーマは人それぞれ、きっとそこで一生モノの知見を得ることができると思います。



上:看板からだって文化と語彙を観察する
下:応言の思索の階段を上ってこないか

応用言語学講義Ⅳはどんな授業？

現代日本語を対象にした文章研究について、どのような手法やテーマ、課題があるのかを学びます。文字言語にはどのような特徴があるのでしょうか。新聞、小説、雑誌、ブログ、といった媒体による違いや共通点にはどのようなものがあるのでしょうか。TwitterやLINEに書かれることばは「書きことば」と言えるのでしょうか。実際の文章の観察を通して言語学的に考える方法と基本的な知識を身に付けます。

先輩たちの卒業論文

- ・Effects of Habit-Enhanced Assignment Design on Learning Behaviors and Psychological Factors of Japanese EFL Learners Under a Distant Online Learning Environment
- ・The Use of Spoken Discourse Markers by Non-Native Speakers: A Corpus-Based Comparative Study of Japanese and Polish EFL Learners
- ・Effects of Congruency on Japanese EFL Learners' L2 Collocational Learning
- ・日本のアニメ映画の英語字幕における訳出ストラテジー—新海誠監督作品を題材にしたテキスト対照分析—
- ・生成AIを用いた談話生成の研究—LINE談話の生成とその特徴—
- ・認知症の人とケアワーカーの相互行為分析—グループホームのドキュメンタリー映像作品から—

授業科目

■ 日本語学概論 ■ 日本語音韻論 ■ 日本語文法論 ■ 日本語史 ■ 日本語学講読 ■ 日本語学演習



『拾遺和歌集』
和歌も日本語研究のための重要な資料のひとつ



日本語学演習IIの授業風景

日本語についてどれだけ知っていますか？

私たちは、当たり前のように、日本語を話したり、読んだりしています。でも、日本語について、実際にどのくらい知っているのでしょうか？ 外国の人に、「女っぽい」と「女らしい」は意味がどう違うのかとか、「京都まで行く／京都に行く／京都へ行く」はどう使い分けるのかなどと聞かれても、なかなか説明することができないでしょう。古文を読んで、昔の日本語は、現在の日本語とずいぶん違うようだと感じていても、それがどのように今の日本語の姿になったのかについては、ほとんど知らないのではないのでしょうか。

日本語学では、万葉集や源氏物語といった昔の文学作品の日本語から、今行われている日常の会話まで、すべての日本語が研究対象になります。どんな音で話されるか、どんなきまりに従って文は作られるのか、どう書かれているのか、語の意味はどう変化しているのかなど、さまざまな方面から考えて行きます。なにより、言葉について、ちょっと気にかけてみる、どうしてなのだろうと自分自身で考えてみるといったところから、日本語学が始まります。



橋本 修（現代日本語・古代日本語の文法（意味論））

脳内現象としても、社会現象としても極めて興味深い存在である日本語を、多面からつつき回しましょう。



那須 昭夫（音声学・音韻論）

日本語の音声・音韻、とくにアクセントなどの韻律現象について研究しています。「音の文法」の解明に取り組む魅力を学んでほしいと思います。



和氣 愛仁（現代日本語文法、人文情報学）

文系・理系という単純な二分法はすでに過去のものになりつつあります。両者を橋渡しするために何が必要か、一緒に考えてみましょう。



菅野 倫匡（文字・表記論、計量語彙論）

日本語の文字・表記や語彙について研究しています。言葉を数えることによって見えてくる面白さや難しさを体験してみませんか。



菊池 そのみ（日本語の文法史・語彙史）

言語資料を読むと、皆さんが使っている言葉との共通点・相違点が見えてくるはずです。そこから日本語の歴史を辿ってみましょう。

コースの声



卒業生 黒田 優月

日本語学コースは、その名のとおり日本語について研究するコースですが、これを奇妙に感じる人もいるかもしれません。「小学校から国語の授業を受けて日本語を学習してきたのに、なぜ大学でも日本語を研究するの？」と。

しかし、高校までの国語と大学で研究する日本語学とは扱う内容が大きく異なります。日本語学コースでは、文法・音韻・歴史・語彙・表記など、日本語に関するさまざまな側面についてさらに深く細かく学びます。

皆さんは、「古文にある昔の日本語はどのように変化して現在の日本語になったのだろうか？」とか、「日本語の多くの方言にはお互いにどのような違いがあるのだろうか？」といった疑問を抱いたことはありませんか？こうした疑問は、日本語という言葉が私たちにとって身近な存在であるからこそ生まれるものです。日本語学コースの授業では、日本語についての基本的な疑問を大切に、それぞれに対する答えを探るとともに、さらに複雑な現象や問題を見つけていきます。

私の周囲には、古文の複合動詞や狂言の語法、現代日本語の動詞使役形の性質、新聞見出しの特徴など、日本語に関する多様なテーマを設定して研究に取り組む学友たちがいました。そして、学生一人一人の興味や関心に対して多くの助言と指導を与えてくださる先生方がそろっていました。このため、私も自分の研究課題に存分に取り組むことができました。少しでも日本語に興味がある皆さんには、日本語学コースでの学びを大いに勧めたいと思います。大学で日本語学を研究する空気をぜひ体験してみてください。

授業科目

■ 英語学概論 ■ 英語文法論・統語論 ■ 英語意味論・語用論 ■ 英語音韻論・形態論 ■ 英語論文講読
■ 英語学演習 ■ 英語学論文演習

英語の仕組みを知り、人間言語を探る

教授〔理論言語学〕 島田 雅晴

言語研究は多岐にわたっており、特定の言語について深く知るための研究もあれば、様々な言語に共通する性質を探る研究もあります。みなさんが英語学コースで触れることになる英語学という学問分野は、そのどちらも行います。英語について、歴史、音声・音韻、形態、文の形式や意味、文脈内での使用法、習得過程などを研究することで、英語という言葉の背後にある様々な仕組みがわかってきます。それと同時に、英語以外の言語の様々な現象に関しても、同じ分析手法を適用して共通の概念でとらえることができることに気づいていきます。これは、英語のしくみを知り、人間言語を探っていることにほかなりません。英語で書かれた基礎文献を読み、英語学の基礎知識や研究方法を学びながら英語で卒業論文を書いていく過程で、このようなことを体験していきます。英語学コースが開設する科目を中核としながらも、他コースや他学類の科目も履修してみてください。英米語圏の文学、文化、歴史、地理、思想などの勉強を通して、英語力を磨き、英語に対する幅広い知識を得ることは、英語学の研究を進めるうえで大きな力になります。また、心理学、数学、生物学、情報科学なども言語学、英語学に関連するところがありますので、ぜひ関心を持ってみてください。



島田 雅晴（理論言語学）

日常意識することがない、自然に身近に存在する物事に何か一つこだわってください。それが研究です。



和田 尚明（時制・アスペクト・モダリティ）

英語という言葉の本質を知りたい人にはぜひ学んでほしいと思います。



矢澤 翔（音声学・音韻論・第二言語習得）

普通教育ではあまり学ぶ機会のない英語の音のしくみについて、ぜひ学んでみませんか。



英語学演習のひとつコマ

宮腰 幸一（理論言語学）

表面的な言語現象の背後にある法則を科学的に解明する楽しさを学んでほしいと思います。

金谷 優（英語学、構文文法、語用論）

ことばは「人の心をのぞく窓」とよく言われます。人間の認知の仕組みとことばの関係を考えていきましょう。

山村 崇斗（生成統語論、文法変化）

今の英語を他言語や昔の英語と比較すると見えてくる類似点や相違点を、生成統語論の枠組みで分析します。

英語学概論はどんな授業？

英語学というのは、英語を対象とする言語学のことです。言語学とは、人間の用いることばの仕組みを明らかにする学問のことです。ことばには、音声があり、音声は意味を伝えます。そして、音声と意味を結びつけるのが文法です。音声にも意味にも文法にも一定の規則性があります。だからこそ、人間はことばで意思疎通ができるのです。英語をもとに、ことばの規則性について考え、英語自体への理解も深めることを目的とする授業です。

先輩たちの卒業論文

- ・ A Semantic Study of the Preposition *over*
- ・ A Syntactic Approach to Psychological Predicates in English
- ・ A Lexical Network Approach to the Verb *Take* in English
- ・ A Semantic Study of Presupposition of the *I don't know that* X Construction
- ・ A Syntactic Study of Residual Verb + *Not* Construction in Late Modern English
- ・ A Study of Preposition Stranding in English
- ・ An Antilocality Approach to Freezing Effects in English
- ・ A Comparative Study of Long-Distance Anaphors in English and Japanese
- ・ A Study of Argument Realization in English: Exploring Passive Construction
- ・ A Cognitive Analysis of Inanimate Subject Constructions in Japanese and English

コースの声



卒業生 高橋 舞

皆さんは「英語学」という学問を知っていますか？スピーキングやリーディングの練習など、高校の英語の授業の延長かなと思った人も多いのではないのでしょうか。実際私もそうでした。

しかし、「英語学」は、高校で習った発音や文法がなぜそのようにあるのかという、英語そのものの背景を解明していく学問なのです。その観点は様々で、音声や形態、認知、歴史など、多角的な方法で

英語を分析・考察していきます。

例えば、私は「英語では主語“I”を必ず置かなければならないが、対応する日本語では“私”が出現しないことが多いのはなぜか」という問いを、認知の仕方の違いから研究しています。研究を深めると、英語の背景にある整然たる規則性や合理性に驚かされることばかりです。また、英語学コースは、普段の論文読解はもちろん、卒論も英語で執筆するため、英語の運用能力も鍛えられます。

皆さんも英語に対してなぜ？どうして？と少しでも疑問を感じたことはありませんか。筑波大学の英語学コースには、多様な分野に精通した熱い教授がたくさんいらっしゃいます。ふと抱いた英語に関する些細な問いを、きっと無限大に広げてくれるでしょう。

ただ英語を習得するだけでなく、その背景を解明していく「英語学」は、あなたの知的探求心を満たしてくれること間違いなしです。英語が好き、もっと知りたい、そんなあなたはぜひ英語学コースへ！

卒業生からのメッセージ



平成30年度卒（民俗学）
鉄鋼業勤務 **大橋 美朝**

人文学類は、広大な領域の人文学を自由に学べる環境です。膨大な資料や書物の中から自分自身の生きる哲学を見出していくことができます。その中で、あえて私は文字資料からは見えない領域を扱う民俗学を専攻に選択しました。フィールドワーク経験を通して、私は人の人生の多様性と、社会の複雑さを知りました。抽象的な理想では片付けられない、込み入った事情を抱えながら生きている人々との対話を繰り返すことで、目の前の現実をただありのままに見ることの大切さを痛感しました。学生時代を、自分の学びたい事柄や好きなことばかりに費やさないほうがよいと私は思います。自分が限定的な視座に立っていることに気づくこと、解釈する思考を取り払ってしまうことも大切です。フィールドワーク実習を通して鍛え職人の方々に出会い、「現場」の技術者に惹かれた私は、鉄鋼業界に志願し、山口県に工場を擁する企業に就社しました。民俗学を学んでいなければこの御縁はありえなかったと確信しています。



平成29年度卒（哲学）
朝日新聞社記者 **白見 はる菜**

2015年6月に文科省が全国の国立大への通知で「人文社会科学系学部・大学院については(中略)社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう」と言及し、波紋が広がりました。まさに当時在学していた私と友人らは愕然としましたが、人文学も縮小やむなしと考えたことは一度もありません。哲学コースで学ぶ中で、今日の国家の制度やわたしたちの道徳心、宇宙のなりたちにいるまで、哲学者がそれまでの常識を疑い、改めて定義し積み重ねた結果だと気づきました。その構造はいまも同じはずです。記者として働く上でも、わたしが信じてきた常識が崩れる瞬間や、自分の倫理観では理解しきれない悲惨な事件に遭遇します。鵠呑みにするのは楽ですが、目の前の事柄を受け止めた上で自ら疑い考える力は、学問の分野や時代を問わず不可欠なものではないかと思ひます。人文学類は刺激的な先生方や学生ばかり。皆さまにとって大きな財産になると思います。



平成26年度卒（日本語学）
一般社団法人共同通信社 校閲専門記者
西村 悠

私は言語学主専攻日本語学コースで学び、卒業論文は、鹿児島県・奄美群島出身の祖父の体験談を元に「危機言語・奄美語の実態と継承」というテーマで執筆しました。入学当初は国語の教員を目指していましたが、普段なにげなく使っている日本語の面白さについて熱く語る先生方の授業を受ける中で、時代によって移り変わる「ことばの正しさ」をより追い求めることのできる仕事に就きたいと考えるようになりました。卒業後は校閲専門記者として共同通信社に入社し、現在は2人の子どもを育てながら、フルタイムでシフト勤務に入っています。慌ただしい毎日ですが、職場だけでなく、わが子の幼児ならではの言い間違いや、街なかで見かける誤植など、身の回りのことばに新しい発見をしています。日常生活でも学問を楽しむ姿勢は、人文学類の先生方から自身もその分野が好きでたまらない気持ちがあふれる授業を受け、仲間たちと充実した学生生活を送ったからこそ培われたものです。皆さんも人文学類で、興味のある分野を探索してみませんか？学問の面白さを余すことなく伝えてくださる先生方や先輩方が、皆さんのことを待っています！



平成30年度卒（歴史地理学）
茨城県中学校社会科教員 **古藤 直輝**

私は人文学類で歴史地理学を学び、今は中学校で社会科を教えています。中学校では生徒の多くが、「なぜ社会科を勉強しなければならないのか？」と質問してきます。しかし、私がその場で「現在や未来に生かすことができるから」などと答えても、生徒はあまり納得しません。それでも、授業の中で「あ、だから社会科を学ぶのか」と生徒が時々思えるような授業を展開できるようになったのは、人文学類で歴史地理学を学んだことが根本にあると思っています。「現在は過去の積み重ねである」と先生がよく仰っていました。歴史地理学では事前のデスクワークを踏まえ、フィールドに出て現地の景観を観察したり文献資料を調査したりします。デスクでの学びとフィールドでの学びの両方をつなぎ、過去と過去、さらに過去と現在とを結び付けながら研究を進めます。だからこそ、過去や現在の人間活動を扱い、未来を創る子どもたちを育てる社会科の教員として、人文学類での学びは大変有意義でした。今後も人文学類での学びを生かし、子どもたちに接していきたいと思ひます。

卒業生の進路 就職と進学



主な進路（法人格等は一部省略、令和3～5年度）

製造業

小松製作所 日産化学
日立Astemo 大日本印刷
富士電機 ペンてる カプコン
セガ

小売・食品業

イオンリテール ニトリ
良品計画 UCC上島珈琲
ルイ・ヴィトン ジャパン

商社・流通業

伊藤忠丸紅住商テクノスチール

金融・保険業

株式会社りそなホールディングス
住友生命保険相互会社
太陽生命保険株式会社
足利銀行 静岡銀行
常陽銀行 千葉銀行
損保ジャパン日本興亜
日本政策金融公庫
野村證券
三菱UFJ信託銀行

通信・出版業

朝日新聞社 NTT西日本
小学館集英社プロダクション
日刊工業新聞社
広島ホームテレビ

運輸業

京王電鉄
鴻池運輸
丸全昭和運輸

サービス業

学校法人河合塾
昭和システムエンジニアリング
セブテーニ・ホールディングス
東急ホテルズ 富士通Japan
有限責任監査法人トーマツ
楽天グループ

その他

国民健康保険団体連合会
全国共済農業協同組合連合会
日本教職員組合
中部電力パワーグリッド

教員

公立小学校（群馬、茨城）
公立中学校（茨城、埼玉、千葉、
富山）
公立高等学校（青森、秋田、茨城、
群馬、高知、栃木、長野、新潟）
つくば秀英高等学校

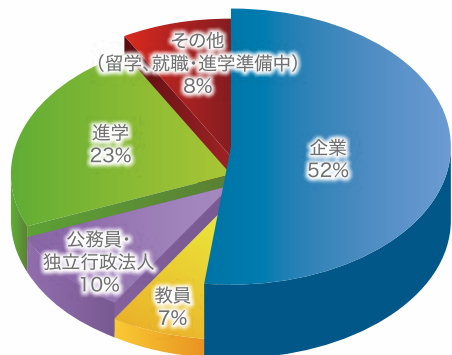
公務員等

厚生労働省 国土交通省
農林水産省 国土地理院
文部科学省
都道府県庁（東京、茨城、長野、埼玉、
千葉、山形、福島、大阪、徳島）
市役所（つくば、宇都宮、名古屋、
千葉、柏、牛久、川崎、札幌、横浜、
越谷）
森林総合研究所
東京国税局
東京都江戸川区役所
農業・食品産業技術総合研究機構
物質・材料研究機構
門司税関
陸上自衛隊

進学

筑波大学人文社会ビジネス科学学術院
筑波大学人間総合科学学術院
筑波大学理工情報生命科学学術院
大阪大学大学院人間科学研究科
慶應義塾大学大学院文学研究科
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科
東京大学大学院教育学研究科
東京大学大学院情報学環
東北大学公共政策大学院
北海道大学文学院人文学専攻

令和5年度卒業生の進路



人文学類におけるキャリア支援

1年生は入学した春学期にファーストイヤーセミナーが必修となっており、クラスごとに担任教員がついて大学生活への導入を図ります。ここではキャリア形成への導入も重視しており、4回程度を合同フレッシュマン・セミナーと位置づけ学外から講師を招くなどして早期からキャリア形成への意識を高めています。また、全学では「キャリアデザイン」の科目が開講され、多くの人文学類生が履修します。これらの科目では、受講者間でのディスカッションやプレゼンテーションが重視されます。ほか、筑波大学では「つくばキャリアポートフォリオ（愛称CARIO）」というツールをキャリア形成支援の中核としています。これは50種類以上のシートにより大学生生活を記録し、就職や進学までスムーズにつなげようとするものです。

一般企業就職への支援

人文学類独自に学生のための就職支援企画を行っています。外部講師による就職セミナーを複数回、また内定を得た4年生による「人文学類生のための就活最新情報取得会」を開催しています。学類での説明会のほか、数百家が参加する全学での学内企業説明会も行われ、有名企業に就職した多数のOB・OGから学内で直接話を聞き、他大学の学生より有利な就職活動を行うことができます。

公務員・独立行政法人職員試験への支援

こちら、人文学類就職支援企画としてOB・OGによるセミナーや内定を得た4年生による報告会を開催しています。全学でもセミナーや格安で受講できる対策講座が準備されています。また、上記の学内企業説明会には一般企業だけでなく官公庁や独立行政法人からも参加があり、多様な話やアドバイスを聞くことができます。

中学校・高等学校教員採用試験への支援

本学ならびに人文学類が伝統的に強みを持つ進路です。OB・OGを招いたセミナーを学類で開催しているほか、全学でも教育界で活躍する本学関係者を招いた説明会などが行われます。

人文学類に関するQ&A

希望通りの主専攻・コースに入れますか？

入れます。3年次に進むときに正式な主専攻と専攻コースの決定を行います。人数制限などはまったくありませんので、当該専攻コースで定められている専門基礎科目等の履修が済んでいれば、希望通りの主専攻および専攻コースに入ることができます。

主専攻・コースの途中変更は可能ですか？

可能ですが、やはり、変更先のコースが指定する専門基礎科目が履修済みであることが必要です。変更前と変更後のコースが指定する専門基礎科目に重なりが少ない場合は、4年での卒業が困難になる場合があります。

取得可能な資格について教えてください。

所定の教職科目を履修すると、中学校及び高等学校教諭一種の教育職員免許状取得のための資格を得ることができます。人文学類で取得できる教員免許状の教科は、国語、社会（高校は地理歴史、公民）、英語です。
また、「博物館学」等の単位を修得すれば、学芸員の資格を得ることができます。

語学教育の内容について教えてください。

1～2年次にグローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）で開講されている外国語を学びます。人文学類生の多くは英語、および、それ以外の外国語を1つ履修します。
英語は1年次に4単位履修します。CEGLOCの英語は「読む、書く、聞く、話す」の4技能のバランスに配慮し、創造的思考力、国際社会への対応力、および、学術的活動に必要な言語運用能力の基盤を養成することを目標としています。
また、第1外国語とは異なる外国語を英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国語から選択し、2年生までに4単位を履修します。
筑波大学では、共通科目の外国語として様々な言語が学べる環境が整っていますので、未知の外国語の学習にも積極的に

取り組み、多様な言語・文化に触れ、視野を広めてください。
また、CEGLOCのメディアライブラリーには、たくさんの語学視聴覚教材や、外国語学習に適した映画やドラマ等のDVDが備えられていて、自由に利用することができます。自分のペースで楽しみながら学習し、どんどん語学力を伸ばすことが可能です。
人文学類の専門教育の中で学ぶことのできる言語としては、日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、満洲語、サンスクリット語、ヘブル語、アッカド語、コプト語などがあり、他大学ではなかなか学ぶチャンスのない言語も含まれています。

文系は就職が不利ですか？

一概にそうは言えないと思います。最近の就職先については本冊子の20ページをご覧ください。

留学制度はありますか？

あります。詳しくは本冊子の4ページをご覧ください。

その他のQ&Aは下記のウェブページで読むことができます。
<https://www.jinbun.tsukuba.ac.jp/faq>



留学先の例（ハイデルベルク大学）

入試情報

定員

1学年120名
※1年次は、うち30名が総合学域群に所属

入学者選抜方針（アドミッションポリシー）

教育目標		「人間とは何か」という問いを根底におき、人間存在とその諸活動の所産としての文化全般について主体的に考察しうるとともに、グローバル化が進展する世界における諸問題にも積極的に関与し発言しうる、真に教養のある人材を養成すること。
求める人材		人文系の学問に必要な論理的な思考力と表現力を十分にもつと同時に、自律的な学習と考察を通して問題を自ら発見し、解決していく能力を有する人材。
入学までに学んでおいて欲しいこと		人文系の学問の基礎となる言語や社会に関する学科について十分な能力を習得し、希望する専攻分野に関連する他の学科についても基礎的な知識を有していることが望ましい。
入学者選抜方針	個別学力検査（前期）	入学後の学習に必要な基礎学力と思考力を十分に持ち、人文系の学問に取り組むことのできる人材を選抜します。
	個別学力検査（後期）	論理的な思考力と表現力をもつと同時に、旺盛な知識欲と探求心を有し、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。
	推薦入試	高等学校における学習の基礎をしっかりと身につけた志願者の中から、個性豊かな課題意識と向上心を持ち、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。
	AC入試	人文系の学問に関わる専門的知識を主体的に吸収し、自己の判断力を磨いていく能力と創造的な問題解決能力を有する人材を選抜します。
	国際バカロレア特別入試	国際バカロレア資格を取得した者を対象として、主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標をもって学ぶ意欲、また、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して入学者を選抜します。
	外国学校経験者特別入試（第1種）	人文系の学問に関する強い関心と論理的思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。

入試スケジュール

- 10月：AC入試（アドミッションセンター入試）
- 11月：推薦入試・国際バカロレア特別入試・外国学校経験者特別入試（第1種）
- 2月：個別学力検査（前期）
- 3月：個別学力検査（後期）

本学のアドミッションセンター窓口（本部棟2階）で入試関連資料が入手できます。

受付時間：9:00～12:00、13:15～17:00（土曜、日曜、祝祭日、休業日を除く平日）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学アドミッションセンター
電話：029-853-7385 FAX：029-853-7392
メール：ac-img@ml.cc.tsukuba.ac.jp

人文学類ウェブサイト (<https://www.jinbun.tsukuba.ac.jp/>) もぜひご覧ください。

人文学類に関するニュース、授業のシラバス、授業紹介、学生インタビュー、よくあるご質問など、本冊子にはない情報をご覧いただくことができます。